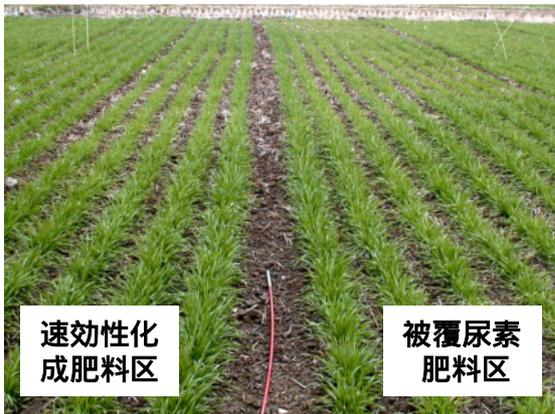
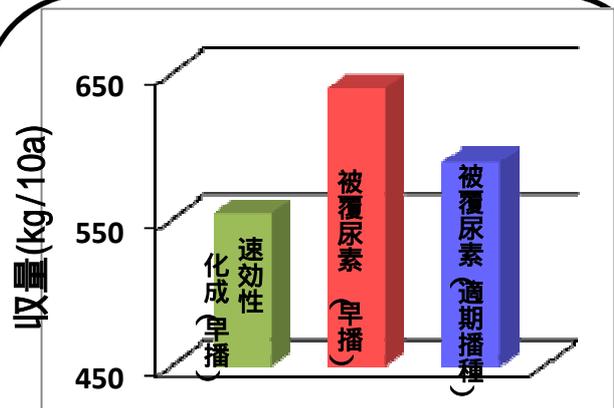


被覆尿素肥料を使うと高品質な小麦の早播栽培が可能になります

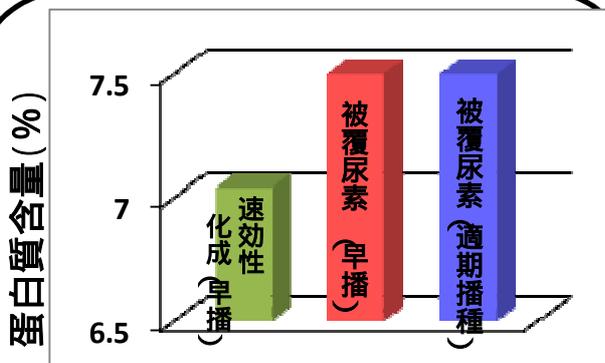
平成16年度に奨励品種に採用した「イワイノダイチ」は、水田転換畑で栽培すると低蛋白になりやすい上、雨害対策に有効な梅雨前収穫のために早播栽培を行うと、さらに低蛋白になるという欠点がありました。そこで当センターでは、肥効調節型の被覆尿素肥料を基肥として施用することにより、早播栽培においても適期播種栽培と同等以上の品質を確保できることを明らかにしました。（平成18～20年度新たな農林水産政策を推進する実用技術開発事業）



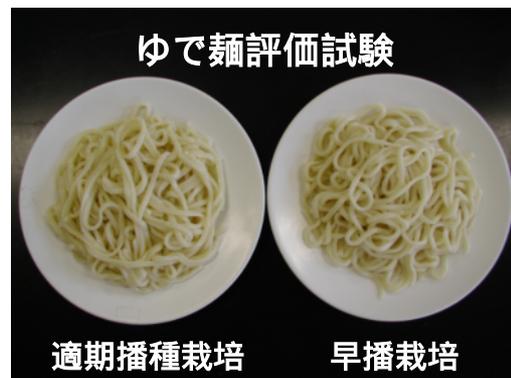
従来の肥料(速効性化成肥料)を使った場合と、初期の生育はほとんど変わりません。



収量は適期播種栽培とほぼ同等か上回り、速効性化成肥料を施用した栽培を大きく上回ります。



蛋白質含量は適期播種栽培とほぼ同等になり、速効性化成肥料を施用した栽培を上回ります。



小麦粉の色調などへの悪影響は見られず、ゆで麺官能評価試験でも適期播種栽培と同等です。

(研究成果)

- ・被覆尿素肥料の施用は、従来の速効性化成肥料を施用するよりも収量・品質において優れています。
- ・被覆尿素肥料を施用した早播栽培では、適期播種栽培と比較しても、収量・品質はほぼ同等か上回ります。